

造形作品「流れくる水のように」

浜谷 信彦

The Art work “ Like flowing water ”

Nobuhiko HAMAYA

Abstract

This work of art is mainly made of ceramics. I have intentionally adopted the natural factors of gravity in one of the processes. By this thing, I managed limited creative situations.

And I struggled between my design and design by nature. The shape of the work also shows traces of all these modeling processes.

This artwork “Like flowing water” was exhibited in the Artist Associations' Exhibitions at The National Art Center TOKYO in 2019.

[研究制作]

この作品は陶を主に用いた造形表現である。陶による制作では、成形時の自重による歪みや変形、乾燥と収縮に起因する変形や亀裂等が生じやすく、塊や厚みのあるものを焼成することは困難である。そのため陶彫やテラコッタ等で大きな作品を制作する場合は、先ず作品の原形をつくり、それを石膏で型取りをして制作していく造形方法を用いることが多い。

しかし、本研究制作では、内部が空洞になるように輪積みにして徐々に高く成形する手練り技法を用いた。意図的に重力の影響を受け易くなるように土台となる板を約十度程傾けて手回し轆轤に取り付けており、自分の設計や意図した通りに成形し難くなるよう、制約となる素材の物性や重力などの自然的な要因を積極的に造形プロセスに取入れた。自重により右へ傾けば左へ向かい、前へ傾けば後ろへ向かい、抗わずに、対話するかのように即興的にフォルムを見出して成形していかなければならない。このように、人の計画やデザインに対して妨げとなる要因が関わってくる中で、自然の力や自我と対峙せざるを得ないような造形プロセスを設定し、その狭間で生まれてくるカタチを探究した。この作品は、自然の源に在る神への畏敬の祈りと、造形プロセスにおけるこれらの葛藤の痕跡がカタチとなって表出したものでもある。

本作品は2019年に制作し、国立新美術館にて開催された公募展において発表している。



図1 作品「ながれくる水のように」
浜谷信彦
2019年制作
陶 酸化焼成1240°C、桐（台座）ほか
概寸 W 35cm×W 35cm×H 182cm（台座を含む）

発表：国立新美術館 一陽展 2019年



図2 作品 部分



図3 国立新美術館 一陽展 第3展示室



図4 ギャラリートーク
2019年10月2日
国立新美術館 一陽展 第3展示室